

コースプランナーレポート

OMM JAPAN 2017 にご参加ありがとうございます。今年も苦しくも楽しい、皆さんにとって得るものが多く思い出深い OMM JAPAN となったならば嬉しく思います。また多くのスタッフ・ボランティアの皆さんにフォローしていただきましたことを深く感謝いたします。

①コースコンセプトについて

昨年 10 月にイギリスで開催された OMM に招待していただき、OMM のコースを実際に体験することができました。その目的は OMM JAPAN をより OMM らしいコースにすることにあります。イギリスで私自身が体験したことも踏まえて（多くは昨年のレポートにも書いてありますが）、地図に関しては縮尺を小さくし競技エリアを広域化すること、地図表現や色合いなどをできるだけイギリスの仕様に近づけることを目指しました。またコースに関しては、細かな地形を辿ったり正確なコンパスワークを問うことに加え、より大胆なルートチョイスや移動しやすい場所を探すルートファインディングなどのナビゲーション課題も重視すること、またナビゲーション力だけではなくスタミナやスピード、危険な場所を安全に通行できる力などより多くのスキル・能力を問うコースとすることが今年のテーマとなりました。

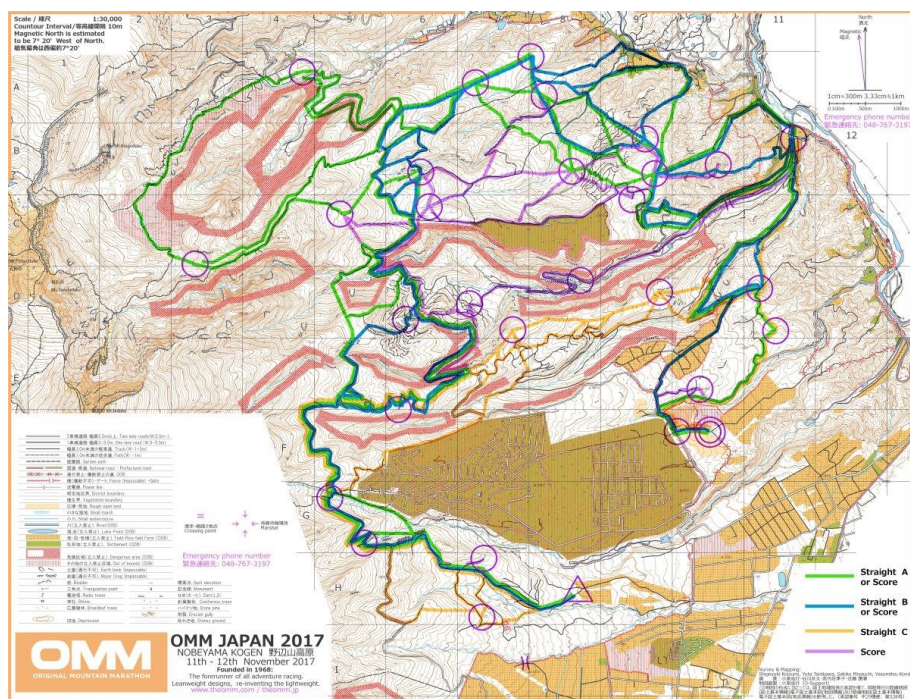
Straight についてはこれまでの **Long**、**Short** を **B**、**C** と改め、さらにレベルの高い **A** コースを新設することとなりました。**Score** についてはこれまではロゲイニングのように四方八方へチームを散らすようなコースを組んでいましたが、イギリスの **Score** ではある程度ルートのラインが決まっており（そのため位置的に簡単なコントロールでも点数を高くして誘導するような配置となっている）、各チームの実力に応じてラインの外へ足を延ばしたり短縮したりを決断するコースが組まれており、それに近いコースへ変更することとしました。

②地図調査・作図とコース設定

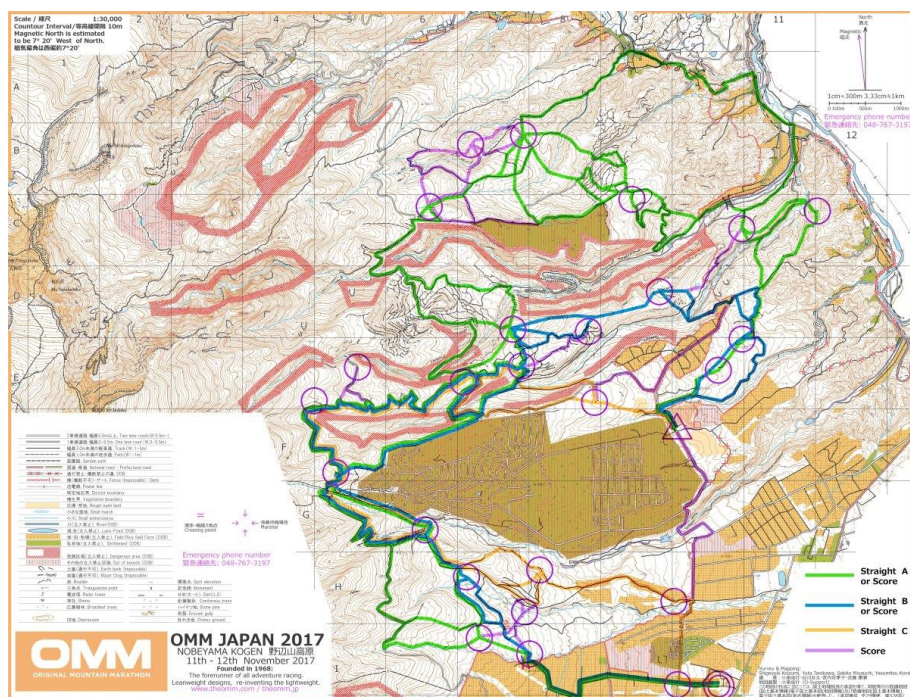
会場とキャンプ地は事前に決まっており、さらに主催者からは **Straight A** に関しては稜線に上げたいというリクエストがありました。稜線を通行する場合、11 月の気候を考えると夏沢峠～根石岳あたりの区間を利用する以外に手はなく、この時点で今回利用した競技エリアがほぼ決まりました。

実際に調査に入ってみると会場とキャンプ地の間にある大きな別荘地に立ち入れないことがわかり、その東側は畑が占め、西側は笹ヤブに覆われた山林であることが分かりました。これはコース設定上大変悩ましい位置関係で、2 日間のエリア分けや距離の短いコースを組むのに苦心しました。一方で競技エリアの北部は見通しの効く植生が広がっており、距離を

延ばせるコースではそのエリアにできるだけ入れるようにコース設定しました。日本の山林の特性上、レグ間の距離を延ばすと道を主体としたルートチョイスになってしまうのはやむを得ないところがありますが、道を外れたオフトレイル区間は例年並みに確保するようにし、今回のコンセプトに合うコースを用意することができました。



- Straight A or Score
- Straight B or Score
- Straight C
- Score



- Straight A or Score
- Straight B or Score
- Straight C
- Score

図1 Day1 (上) と Day2 (下) の主な想定ルート

安全管理チームと共同で現地調査を進めた結果、落石や滑落の危険があるエリアも多数見つかり、それらは通行が必要な場所に関してはできるだけ正確に調査を行い、通行の必要がないエリアは迷い込むことを防止する意味でも危険区域として地図に表示しました。渡渉についても低体温を引き起こす原因となりかねないことから、できるだけ濡れずに渡渉できる位置を通過するようコントロール位置を調整しました。

夏以降、試走や追加調査を繰り返した結果、稜線まで行くとかなり時間がかかってしまうことから **Straight A** は稜線に上げないコースとしました。

コース構想の段階とコースをほぼ確定させた段階で全世界の **OMM** をコントロールする **Dave Chapman** 氏にコース設定に関して机上でのアドバイスをいただきました。最初の段階ではエリア分けについてアドバイスを受け、最後の段階では **Straight** のコントロール位置や **Score** のコントロール数についてアドバイスを受け、コースの最終調整を行いました。

地図に関しては国土地理院の数値地図を利用し、1/30000 の縮尺でも記号サイズを縮小させずにできるだけ見やすい地図になるように心がけました。7 月に開催された **OMM LITE** で同じ仕様の地図をリリースし、そこでの意見も参考に 11 月 に向けて記号サイズや色合いのブラッシュアップを行いました。

③想定と実際

各コースの想定ウイニングタイム（ポイント）と実際のトップタイム（ポイント）、完走率等は表 1・2 の通りです。概ね想定した通りに収まりましたが **Straight** に関しては 2 日目のタイムが想定を上回りました。参加者の疲労も考慮して短めに設定したのは確かですが、今後はもう少し距離を延ばすか難しいコントロールを設定するべきでしょう。

また **Score** の **Day1** 序盤では行けるコントロール数が限られることから渋滞やパンチ待ちが発生しました。ウェーブスタートであること、スタートから最初のコントロールまで距離があることからその発生はあまり想定していませんでしたが、チーム数が圧倒的に多いことを考えると序盤はもっとバリエーションのあるコントロール配置とするべきでした。

表 1 **Straight** のコースデータと結果

Straight	日	コース	制限時間	ウイニング	コース距離	登距離	トップタイム	完走率
2017	Day1	A	10h	6.5-7h	29.2km	2080m	7:19:32	44%
		B	9h	5-5.5h	20.7km	1330m	5:16:31	68%
		C	7h	3.5-4h	14.6km	630m	3:58:27	72%
	Day2	A	10h	5.5-6h	23.2km	1370m	5:35:55	76%
		B	9h	4-4.5h	15.4km	880m	3:45:29	86%
		C	7h	3-3.5h	12.3km	660m	2:54:42	88%

表2 Score のコースデータと結果

Score	日	コース	制限時間	満点	想定 得点率	トップ得点	トップ 得点率	平均点
2017	Day1	Long	7h+1	750	60-70%	510	68%	215
		Short	5h+0.5	550	60-70%	310	56%	123
	Day2	Long	6h+1	750	60-70%	490	65%	243
		Short	4h+0.5	550	60-70%	320	58%	139

④お詫びと今後の課題

まず確認不足のため、設定より早くに撤収を指示してしまったコントロールがあり、いくつかのチームに多大なご迷惑をおかけしてしまいましたこととお詫び申し上げます。フィールドの規模が大きくなればなるほど準備段階での確認が重要となります。主催者、協力団体およびボランティアの皆さんにも協力を請い、より万全の体制を整えてまいる所存です。

今後 OMM JAPAN のコースをより熟成させていくためには、植生や立入禁止区域・危険区域の状況を開催地決定前にある程度把握してから決めるなど、開催地ありきではないフィールド選定の過程が必要となってくるのは確かでしょう。

コースに関しては開催地のフィールド特性に依るところが多くなってしまうのは仕方のない部分ですが、固定のコンセプトには拘らず、そのフィールドの特性を十分に活かしたコースを用意することが全国で OMM JAPAN を開催していく上では必要なことになってくるかと思います。それはまた Competitor にとっても開催地に合わせてコースや天候を予想し、準備を行うという点で山の総合力を問うイベントとなるのではないかと思います。

地図に関しては耐水用紙の導入を検討することで耐水用ポリ袋のサイズに囚われず、フィールドの特性に合わせた適切な縮尺でコースを提供することができるようになります。

コースプランナー

小泉成行